



平素は医療福祉・在宅看取りの地域創造会議へのご理解、ご協力ありがとうございます。

1/23は彦根でワーキンググループ会議がありました。彦根では例年雪が降っても不思議ではない時期のため心配していましたが、取り越し苦労に終わりホッとしています。しかし、こんなにも雪が降らないのも心配ですね。ご承知のとおり、四方を山で囲まれ真ん中に大きな湖をもつ滋賀県は、周囲の山々からの雪解け水によって春以降にも潤いがもたらされます。田植えシーズンや真夏の水不足、琵琶湖の水草の成長不良やそれに伴う水質悪化など、心配されることはたくさんありそうです。大雪は困りますが、適度な降雪は必要ですね。

第80回ワーキング会議(1/23) 彦根勤労福祉会館 2階 研修室

排泄支援プロジェクトの第5回目は、初参加6名を含む27名の方にご参加いただきました。今回は施設や家庭での排泄支援について、①羞恥心の強い利用者②排便コントロールが困難な利用者という2事例の対応についてお話がありました。



・排泄は生活を支える大切な要素。これからは在宅での排泄支援も必要。

- ①生理用品と尿取りパットは、見た目が同じサイズでも吸収量が全く違う。店舗での購入に抵抗がある場合はネット等でも購入可。
 - ②リハビリパンツは、若くて羞恥心の強い方には、色付きのすっきりしたデザインのを提案している。
- また、排便のペースは人それぞれ。毎日出ない=便秘ではない。周囲の人にもそのペースを知っておくことが大切。

〈ワーキングのテーマ〉

①の羞恥心の強い利用者の排泄支援について、「支援する立場に立って、利用者の最高のストーリーと最低のストーリーを考えてみましょう」

【最高のストーリー】

- 家族・施設の職員等と良好な関係が築けていると・・・
- 恥ずかしいと思っていることも、本音で話せる
 - 本人の納得・安心を引き出すことができる→今まで人間関係を保って、毎日を明るく生き生きと過ごせる
 - 失禁のタイプを見極めてもらえ、アセスメントできる→パット・リハビリパンツ以外の手段も考えてもらえる→自立につながる
 - 自分で排泄できるようになる→安心して外出でき、様々な活動に参加できるようになる



【最低のストーリー】

- 尿失禁・便失禁に対応してもらえず放置され続けると・・・
- 臭いが染みつき、周囲(家族)から白い目で見られる→鬱、引きこもりになる→し尿にまみれた生活→家族もストレスを抱える
 - 失禁が増える→尿路感染症・皮膚トラブル→身体機能の低下
 - 介護度が上がる
 - 家族が本人の意思を無視して紙パンツ・オムツを強要する
 - 布パンツに戻したいという気持ちが失せる→生きる意欲をなくしてしまう



☆排尿をテーマとして一年間話し合っています☆

- 4月「排泄支援プロジェクトの概要」
彦根市立病院 北川 智美 さん
- 5月「薬剤師からの薬による尿閉、排尿障害等の副作用のあるある」
リリー薬局 池田 富美子 さん
「認知症高齢者の排泄行動とそのケア」
彦根市立病院 藤井 裕子 さん
- 7月「認知症と尿失禁」
社会福祉法人青祥会 藤井 優子 さん
- 10月「知っていますか? “身近な排泄用具について”」
彦根市立病院 北川 智美 さん
- ★1月「在宅における排泄支援の対応について」
デイサービスセンター新海 森永 真由美 さん
- 3月「排泄支援プロジェクトのまとめ」

次第

- ☆前回の振り返り
- ☆「在宅における排泄支援の対応について」
◎特定非営利活動ホームスイートホーム
デイサービスセンター新海 森永 真由美 さん
- ☆総括 ◎彦根市立病院地域連携センター長
皮膚・排泄ケア認定看護師 北川 智美 さん

一人の患者をサポートする多職種は、それぞれ違う場(施設・病院など)で働き、それぞれ専門性があり、様々な提案をしていく。お互いの顔は見えなくても否定することなく、患者にとって最高のストーリーを作るために頑張っていきましょう。



みどり川柳巡回展

大津郵便局にみどり川柳巡回展を見に行ってきました! 遠方にご両親がいる方などを中心に興味深く見てくださっているとのことでした。(大津郵便局は1/24で終了しました)



2/8~14はイオン大津京で開催予定です。ぜひご覧ください!



☆第81回ワーキンググループ会議 令和2年2月20日(木)18:30~20:00 於:草津市立まちづくりセンター309号室
テーマ「在宅医療を支える薬局機能について」 滋賀県薬剤師会 オリーブ薬局 大西延明さん

☆第82回ワーキンググループ会議 令和2年3月19日(木)18:30~20:00 於:県庁 北新館3階 中会議室
テーマ「今年度の振り返り&会員同士の交流会」

ご意見等お待ちしております!